

研究所だより

第416号
2020年 6月11日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015



“ てるてる坊主 てる坊主 あした天気に しておくれ
いつかの夢の 空のように 晴れたら金の鈴(すず) あげよ ”

『 てるてる坊主 』 1921 (大正10) 年 童謡・唱歌



～ 紫陽花の花が色鮮やかに咲いています！ ～

暦の上では、実を殻のついた芒(のぎ)のある麦や稲など穂の出る穀物の刈り取りや田植えを始める時期と言われる「芒種」(5日)、「入梅」(10日)が過ぎました。

沖縄、奄美、九州南部は5月連休明けから月末にかけ、四国地方も31日に梅雨入りが発表されました。昨年より26日早い梅雨入りとなりました。

各学校では、プール開きも終わり水泳の授業が始まっていることでしょう。これから暑くなってくると川や海へ行く機会が増えてきます。「自分の命は自分で守る」を合い言葉に水難事故防止に努めていただきたいと思います。



★第1回教育研究所運営審議会開催★

6月9日(火)に第1回教育研究所運営審議会を開催しました。本年度の役員選出並びに事業計画について意見交換を行いました。会長には、嵐 次広さん、副会長には、佐竹 正史さんが選出されました。よろしくお願いします。

〔運営審議会委員〕

学識経験者			校長会	教頭会	教諭(小)	教諭(中)	教諭(高)	指導主事	所長	研究所	
嵐	速川	奥谷	佐竹	徳弘	西村	橋	松本	永野	亀谷	橋本	勝間

＝本年度の主な事業＝

(1) 教職員の資質・指導力の向上の取組

- ① 転入教職員研修会の開催 ② 校内研修や教育活動への支援

(2) 授業力の向上の取組

- ① 教育研究活動による事業：教育研究集会(教研活動)の運営：11部会
② 教育研究推進による事業：研究協力校(2校)
③ 学力向上検討委員会(こども未来課主管：連携)

(3) 豊かな心と健やかな体の育成の取組

- ① 実態把握のための定期的な学校訪問 ② SSW・SC(アトリーチ型)との連携
③ 適応指導教室「あすなる教室」との連携
④ 特別支援教育コーディネーター(あすなるネットワーク)連絡協議会の開催(4回)

(4) 特別支援教育支援

(5) 情報教育に関する事業

(6) 資料収集に関する事業

(7) 刊行物

- ① 『研究所要覧』の発行 ② 『清水の教育』の発行 ③ 『研究所だより』の発行
④ 社会科副読本『土佐清水市の暮らし』(3・4年生用)改訂版の作成

(8) 教育研究所運営審議会(年3回)

(9) 高知県教育研究所連絡協議会(年2回)

＝2020年度 研究協力校＝

<三崎小学校> 研究主任：畠中 明美

校長：黒岩 壽賀

1. 研究テーマ

『地域との連携・協働』を通して自立する児童の育成

高知県教育振興計画の5つの取り組みの方向性の一つである「地域との連携・協働活動」を推進する為、総合的な学習の時間や社会科等の時間を中心として、地域の方との豊かな出会いを通して地域の方の温かさや自然を再発見し、児童の自立を目指す。

2. 研究の概要

◎目標

- ① 地域の人達との交流や自然の中での体験活動を通じて歴史や課題を理解し、ものの見方や考え方を深める。
- ② 「山・川・海の学習」を通じて地域や文化について学び理解を深める。
- ③ 森林の持つ意義と大切さを学び、これからの環境について考える。
※総合的な学習の時間や社会科の時間を活用し地域の方との連携・協働活動を通して、地域の持つ良さを探求する。また地域の方と豊かな出会いを通して、体験的な活動を行い身近な自然に触れ、自分達にできることを考える。

◎活動計画

- ① 学校行事と連動させ、自然の中で活動を行い「桜浜」の地域としての価値を考え清掃活動を行う。(全学年)
- ② 地域の花作り。【校舎周辺への花植え】(全学年)
- ③ ふるさとの川の恵み体験。【川エビ漁】三崎川の持つ豊かさや自然の生き物に触れ、川を守ろうとする意識を育てる。(高)海・山・川のつながりを学習し、そこで暮らす人々の生活を考える。
- ④ 川清掃【児童・保護者・地域合同5か所】(全学年)
※今ノ山から流れ出す川を大切にすること、誇りを持つことで、そこで生きることへの自尊感情を育てる。また、地域の中での活動を通して地域を愛する心を育み地域の人達との交流を行う。夏休み中の各地区での活動を通して、地域の人々とふれあい、地域の持つ良さを考える。
- ⑤ 海洋館見学(海洋生物 生態を学習)地域の観光施設を見学することで、身近な海に住む生物に関心を持ち、山や川の大切さを理解する。(全学年)
- ⑥ 田植え(米作り体験・収穫・餅つき大会)などの体験活動を通して、山と川のつながり人々の暮らしを考える。(全学年)
- ⑦ 地域学習(全学年)
フィールドワーク・・・地域の工場や施設の見学を行う。
- ⑧ 海浜学習(シュノーケリング・サンゴ生態学習)
山・川・海の循環作用が自然の摂理であることの理解。
また、そのつながりが身近な自然を育み、人々の暮らしと深く関わっていることを理解する。(中・高)
- ⑨ 間伐作業(高)



*⑥ [5/11田植え]

3. その他

- ・ デイサービスや社会福祉事業との関連行事。



1. 研究テーマ

心豊かに表現できる児童の育成
～NIE 活動を通して～

[新聞]は、様々な語句や文章、写真が掲載されているため、新聞に親しみ、読むことは、より多くの語彙に触れ、情報を伝達する表現方法を学ぶことができる。

そこで、出来事を5W1Hで簡潔にまとめ伝える文章構成やその時の様子が伝わる表現方法等を学ばせ、学んだ文章構成や表現方法(技能)を記事や新聞づくりに活かす。そして、日記・作文を書くときは、心豊かに表現する力に育つようにつなげたい。

2. 研究の概要

① 学級での取組

- ・新聞に親しむ活動
- ・新聞記事を活用した授業(各教科)

② 学校全体での取組

- ・「地域を学ぶ」ヤブツバキ再生プロジェクト
- ・高知新聞「読もっか」への記事やイラストの投稿

③ その他の取組

- ・各種コンクールへの応募



3. その他

- ・日記や作文指導



*②ヤブツバキ再生プロジェクト

昨年度3、4年生が総合的な学習の時間に環境省の方の協力を受け、土佐清水市の花である「ヤブツバキ」を題材にした「ヤブツバキを守る5人の戦士」という絵本を作成しました。

◇図書紹介◇

ぜひご利用ください。



中学校学級経営ハンドブック

編著：鹿嶋真弓・吉本恭子

「本書は、学級担任を対象に、集団やルールや規律が守られ、協力し合える人間関係があり、お互いが成長し合える学級に育てるためには、どのような集団を形成していけばいいのかという道筋を、「環境・約束」「信頼・仲間」「キャリア」の3つの柱に沿って示しました。「何をするか」だけでなく、「キーワード」や「押さえておきたいポイント」を具体的に示し、すぐに実践できる内容となるよう工夫しました。」(鹿嶋真弓)

教室のドラマを実況中継する

プロの学級通信

編著：河田孝文・大貝優希・TOSS/Advance

「学級通信は、第一級の資料である。なぜなら、学級通信には、ウソが書けないからである。

学級通信は、何のために発行するのか。第一は、自分自身のためである。ウソやゴマカシのない教育実践記録を残すためである。その延長線上に保護者への説明責任がある。そして、波及効果として子どもの意欲喚起がある(作品が掲載されると子どもは燃える)。

授業をおろそかにした通信発行にはなんの意味もない。学級通信を多く出す教師がよい教師ではない。授業をきちんとする教師がよい教師なのである。授業がいい加減になるのなら、学級通信発行はやめた方がいい。授業を優先すべきである。その上で、学級通信を「ウソのない実践記録集」として発行することを勧める。」

(河田孝文)

